特集

NTTデータの
ヘルスケア事業分野への取組み

インタビュー

ヘルスケア分野において社会情報トライアングルの実現を目指す

NTTデータの成長エンジンの一つとして、保険・医療・福祉分野において国民がより良いサービスを効率的に利用できる社会の実現に向け、ヘルスケア分野のビジネスを展開するヘルスケアシステム事業本部。勘定系、診療系、予防系の3つの事業領域を核に、ビジネス強化と社会情報トライアングル（社会基盤構築）への貢献を目指す最近の取組みについて、星久光執行役員・ヘルスケアシステム事業本部長にうかがった。

㈱ＮＴＴデータ　執行役員
ヘルスケアシステム事業本部長
星　久光氏

2008年度は、医療制度改革に対応したビジネスを展開

――NTTデータの成長エンジンとして、ヘルスケア分野（勘定系、診療系、予防系）でのビジネスを展開されていますが、周辺環境を含め、最近のビジネスの状況からお聞かせください。

星　ご存知のように2008年4月は、後期高齢者医療制度や特定健康診査（特定健診）の義務化など、医療制度改革の各施策が実施されました。また、従来から取り組んできました診療報酬明細書（レセプト）の電子化は、昨年秋に50％を超えたといわれています。このような医療制度改革の実施や、従来から推進してきましたIT新改革戦略に基づく医療分野のIT化の推進について、部分的には当初計画のようには行きませんでしたが、国の政策に対応したビジネスが展開できたと思っています。

――2008年度当初、内部組織を改編されましたが、その背景及び狙いは・・・・。

星　私どものビジネスは、パッケージやASPを中心とした横展開型のビジネスと、個々のお客様の変革パートナーとしてお客様に密着した個別SI型のビジネスという特性の異なる2つのビジネスからなっています。制度改革への対応などにより、後者の個別SI型のビジネスが拡大してきたことや、それまで社内の他の事業部内組織であった健保組合システム担当、共済組合システム担当を当事業本部に合併したこともあり、2008年4月に本部内組織を改編しました。「医療福祉事業部」と「医療IT事業部」の2つの事業部によって、ビジネススタイルに合わせた形で拡大路線を走ろうというのが狙いです。

勘定系・診療系・予防系の３つの領域を核にビジネスを拡大

――一昨年の事業本部発足時より、勘定系、診療系、予防系の3つの領域を核に、ヘルスケア分野のビジネスを展開されていますが、現在までで特に注力されてこられた分野というのはあるのですか。

星　注力といいますか、期待していましたのは予防系事業です。これまで市場が本格的に立ち上がっていなかった予防系事業が、特定健診の義務化を契機に、もう少し伸びると思っていましたが、まだ新しい制度ということもあり、伸ばすためにはひと工夫が必要な状況だと考えています。一方、勘定系の事業領域に属するレセプトのオンライン化に関連するビジネスは、かなり拡大してきました。

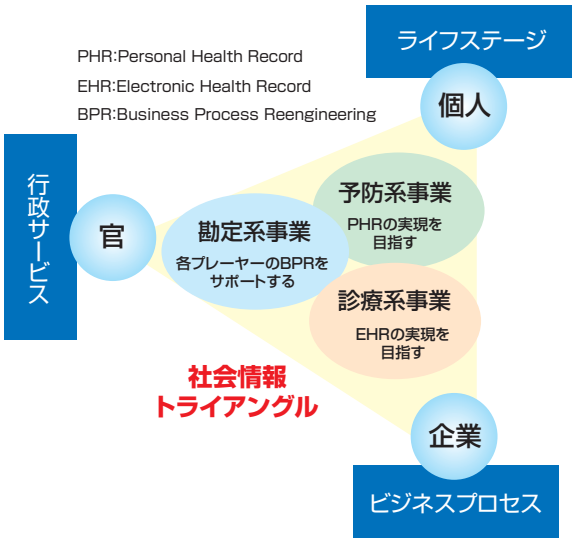
――2011年度からはレセプトの電子化・オンライン請求が原則義務化されますが、主としてどのようなビジネスがあげられますか。

星　医療機関におけるレセプト請求システムに加え、レセプトデータを受ける側のシステム対応も数多く受託しています。今年度は、DPC（Diagnosis Procedure Combination）レセプトへの対応や双方向化の対応

等の機能強化が行われています。さらにはレセプトのオンライン化を安価で簡単に実現する基盤としてのセキュアなネットワークの提供も開始しました。また、これまで紙でしか行われていなかった歯科のレセプト請求については、本年1月より支払基金様が各ベンダーとの接続試験を開始しており、これから電子化に向けた動きが本格化するものと思われます。

――診療系の領域での取組みについてはいかがですか。

星　現在、小児救急や周産期救急をはじめ、医師不足など、医療供給体制に起因する課題が注目を集めています。私どもは、約30年前から救急医療情報システムを手掛け、今日まで各地域毎の要求条件に対応したシステムの提供を行ってきました。この強みを活かし、特に社会問題化している周産期救急医療について、国の検討動向を踏まえながら提供する救急医療情報システムも変えていく必要があると考えています。また、昨年4月から実施されている医療制度改革への対応の一環として、地域ごとの特性を踏まえた医療供給体制について、国の指針に基づき各都道府県で見直しが行われています。私どもも、国の指針である4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）5事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）をITでサポートする最適化システムの構築に取り組んでいきたいと考えています。まだ、それほど実現できてはいませんが、現在、病院と診療所の連携や遠隔医療などの地域医療連携や、健康保険や介護等を含め、いかにして地域でのQOL（Quality Of Life）の向上を図るかということをITでサポートすることに注力しています。特に、レセプト完全オンライン化に伴い、セキュアなネットワークが病院に導入されるため、これを上手く活用する方法を提案していきたいと考えています。



ヘルスケア分野における社会情報トライアングル

――ASP・SaaSなどのサービス・ソフトウェアについてはどのようなお考えですか。

星　もともと私どもが30年以上も前に初めて手掛けた病院情報システムは、共同利用型でした。技術進歩に伴い病院は専用のシステムを院内に構築して対応してきました。ハードウェアやネットワークの進歩によりASP・SaaS型でのサービス提供が実用になってきた現在、特にIT専門家のいない医療機関などにおいては、サービスとしての利用への期待が高まっています。私どもは共同利用型システムの構築・運用実績・ノウハウを踏まえて、今後も積極的に取り組んでいきたいと思っています。すでに、介護をはじめいくつかのASPサービスの提供実績があり、昨年は日本歯科医師会様のレセプトASP事業について、私どもをパートナーとして選定していただきました。

ヘルスケア分野の社会情報トライアングル実現への貢献に注力

――最後に、今後のビジネスの抱負をお聞かせください。

星　2009年度は、これまで個別に展開してきたサービスを今後は統合した形でサービスが提供できるようベースをしっかりと創ることを主眼に事業展開していきたいと考えています。NTTデータの公共分野におけるビジネスの方向性である、行政・法人・個人を結ぶ公共サービス“社会情報トライアングル”の実現に向けて、個人のライフサイクルにおける様々なフェーズでステークホルダーへのサービス支援ができるよう貢献していきたいと考えています。

――本日は有難うございました。

（聞き手・構成：編集長　河西義人）